

准看護学校と連携した高等学校  
衛生看護科(昼間定時制)が宮崎県  
小林市にあることを知り、2013年  
秋に同市を訪問した。私はそこで、  
明るく元気に挨拶をしてくれる地  
元の小中学生に出会った。姿勢が良  
く、礼儀正しい児童生徒達の姿か  
ら、私は同市の教育に関心を持った。

姿勢が良いのは、愛知県出身の教  
育者である森信三が提唱した「立  
腰」を、学校教育で取り入れていた  
からであった。「立腰」とは腰骨を立  
てる姿勢のことで、座禅を組むのと  
同様な効果があるとされる。小学校  
を訪問した際、1年生から6年生  
まで、私語もなく、居眠りもせずに  
落ち着いて授業を受けている様子  
に感動した。早速、本学の講義で1年  
間「立腰」を導入してみたところ、履  
修者から「授業に集中できる」、「健  
康になった」等の感想が寄せられ、  
それ以降毎年1年生の講義で実践  
している。

同市の小中学校では、全クラスに  
月1〜2回、読み聞かせのボラン

ティアが訪問し、児童生徒の本に対  
する関心を高めている。飲食可能な  
図書館があるTENAMU交流スパー  
スには、木のおもちゃで遊べる木育  
キッズスペースもあり、同市が目指  
す0歳から100歳までの異年齢  
交流が自然と行われている。

経済格差が拡大し、災害や戦争の  
影響を受ける困難な時代の教育の  
在り方を、同市から学び、その知恵  
を授けられている。教育学科では、  
小学校及び特別支援学校の教員を  
養成している。私はこれから教員と  
して学校教育に携わる学生に、困難  
な時代を生き抜く教育の在り方を  
伝えていきたい。

